

[野菜部門]

5. 肌つやが良く秀品率が高い高冷地4月上中旬播き青首ダイコン品種「W8551」

[要約]

青首ダイコン品種「W8551（渡辺採種場）」は、肌つやが良く秀品率が高い。本品種の萎黄病の耐性は比較的強く、高冷地における4月上中旬播きでの抽苔は不織布のべたがけによって回避できる。

[担当] 高冷地研究室

[連絡先] 電話 0867-66-2043

[分類] 技術

[背景・ねらい]

高冷地におけるダイコンの4月上中旬播種、6月収穫の作型は、単価が比較的高く、特に秀品は優品に比べて3～4割高い。このため、肌つや等に優れ、秀品率が高い品種の選定を行う。

[成果の内容・特徴]

1. 「W8551」は、淡緑の青首ダイコンであり（図1）、肌つやが標準品種に比べて優れる。
2. 本品種の圃場及び選果場での廃棄は約10%で、標準品種と同程度である。秀品箱数は、標準品種に比べて20%程度多く、これは主に肌つやが良いためと考えられる。
3. 無保温で低温に遭遇すると抽苔する危険性があり、出荷不可となることがある。播種直後から約3週間不織布のべたがけによる保温を行えば、低温年でも抽苔は見られない。
4. 多発圃場における萎黄病の発病は標準品種と同程度に少なく、耐病性に優れている。

[成果の活用面・留意点]

1. 本品種は、標高約400 m以上の高冷地における4月上中旬播種、6月収穫向けであり、この時期以降の播種、あるいはより温暖な地域での栽培では、高温障害や横縞症等の発生に注意が必要である。

[具体的データ]



図1 収穫期の「W8551（左）」及び「TDA-701（右）」（平成22年4月5日播種、6月11日収穫）

表1 「W8551」の出荷箱数及び廃棄本数率

品種	出荷箱数 ^z (10 kg 箱/a)							栽培株数に占める廃棄株率 (%)		
	秀2L	秀L	秀M	優2L	優L	切り ^y	合計	秀品 合計	選果場で廃棄	
									割れ による	圃場で廃棄 ^x 外観 による
W8551	7	34	3	1	7	1	53	44	1	1
(標) TDA-701	10	24	2	3	15	2	55	36	0	1

注) 平成22年4月6日播種、6月14日収穫。播種直後～4月下旬に不織布べたがけによる保温。

^z 2Lは1,300 g以上(8本/10 kg箱)、Lは1,000～1,300 g(10本/10 kg箱)、Mは800～1,000 g(12本/10 kg箱)。

^y 肥大根の下部に傷、病害、その他の障害があり、切断して上部のみ30本/10 kg箱で出荷した。

^x 発芽不良による欠株、及び岐根、肥大不足、病害により出荷不可となったものを含む。

表2 「W8551」の抽苔株率

品種	抽苔株率(%) ^z		
	平成21年 3月31日播種		平成22年 4月5～6日播種
	保温なし	保温あり ^y	保温なし
W 8551	0	90	0
(標) TDA-701	0	0	0

^z 収穫期に茎頂付近に花蕾が認められた時点で抽苔したものとみなした。

抽苔株率＝抽苔株数/調査株数×100 (%)とした。

^y 播種直後から約3週間、不織布のべたがけによる保温。

表4 「W8551」の萎黄病の発病

品種	発病程度 ^z	発病株率(%) ^y
W 8551	0.4 ± 0.2	31 ± 12
(標) TDA-701	0.2 ± 0.1	22 ± 8
冬自慢	1.1 ± 0.3	47 ± 13

注) 萎黄病多発圃場で栽培した。

誤差は2反復(各30株)の標準誤差を示す。

^z 発病程度は、調査株を「0: 発病が見られない」、「1: 地上部に異常は見られないが、根の切断面が褐変」、「2: 下葉が枯れているが、生葉が残っている」、「3: 葉がほとんど枯死している」に分類し、その平均とした。

^y 発病株率＝発病程度1以上の株数/調査株数×100 (%)。

[その他]

研究課題名：県北部に適したダイコン導入品種の選定試験

予算区分：県単

研究期間：2009～2010 年度（真庭農業普及指導センター実証班での検討を含む）

研究担当者：佐野大樹、石邨英明